

平成21年8月6日

報道機関 各位

東北大学電気通信研究所

岡部金治郎先生と分割陽極マグネトロンが  
第2回電気技術顕彰「でんきの礎」に選定

電気学会では創立120周年の記念事業の一環として、「社会生活に大きく貢献した電気技術」の功績を称え、その価値を多くの人に知ってもらい、電気技術への関心をもってもらうことを目的に、技術史的価値、社会的価値、あるいは学術的教育的価値のいずれかを有する約25年以上経過した電気技術の業績を「でんきの礎」(One Step on Electro-Technology)として顕彰を行っております。

このたび、岡部金治郎先生と分割陽極マグネトロンが、第2回「でんきの礎」として顕彰されることとなりました。<http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/30-foundation/index.php>

つきましては、下記の通り、授与式を開催いたします。ご多忙中のところ誠に恐縮ですが、ご臨席賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 記

### (授与式)

1. 日時：平成21年8月21日(金) 16時00分から
2. 場所：東北大学電気通信研究所  
仙台市青葉区片平2-1-1  
2号館 2階 所長室



本件に関するお問い合わせ先

東北大学電気通信研究所

総務課長 022-217-5419

庶務係長 022-217-5420

E-mail:[k-kida@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:k-kida@bureau.tohoku.ac.jp)

でんきの礎  
-振り返れば未来が見える-

# 岡部金治郎と分割陽極マグネトロン

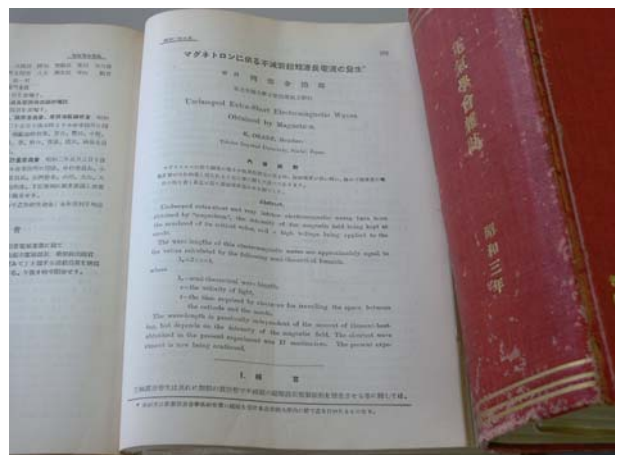
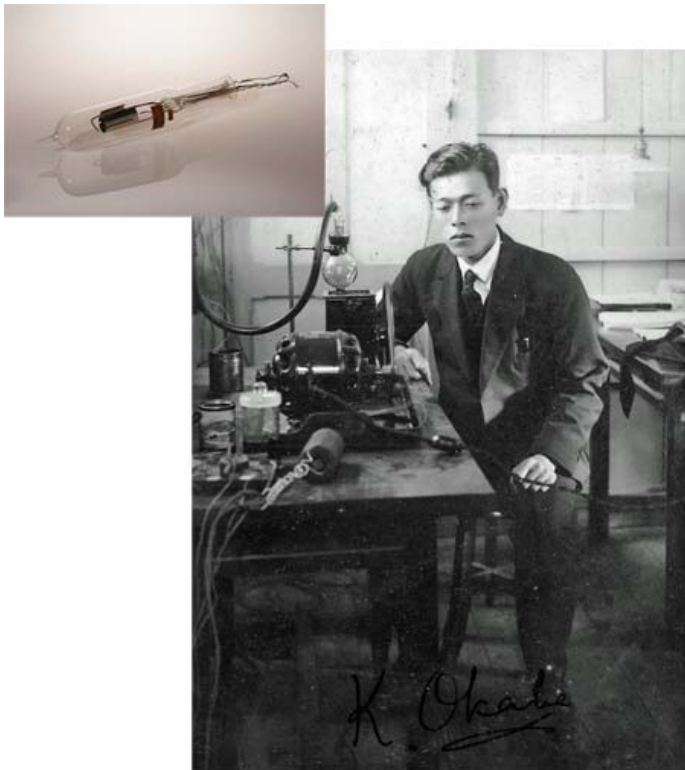
## Kinjiro Okabe and Split-Anode Magnetron

1922年、東北帝国大学（現・東北大学）を卒業した岡部金治郎は、同年より母校である東北帝国大学の講師となり、1927年、分割陽極マグネトロンを世界で初めて開発した。それまでにアメリカで開発されていた単陽極マグネトロンは、低効率でパワーが弱く波長の長いマイクロ波しか発振できなかったが、岡部が開発した分割陽極マグネトロンでは、効率のよい安定したマイクロ波（波長3cm、周波数10GHz）を発振することが可能となり、実用化に向けて飛躍的な進歩を遂げた。

分割陽極マグネトロンは、現在でも電子レンジや、航空機、船舶などで用いるレーダ、人工衛星に搭載し、地球環境計測に用いられている開口レーダ技術などに利用されており、国民生活や社会に大きな影響を与える技術となった。

このほかにも岡部は、マイクロ波発生装置の開発とそのメカニズムの解明に向けた研究を進めて数多くの優れた業績を残し、マイクロ波の応用技術を発展させた電子工学の先駆者とも言われており、1944年には文化勲章を受章している。

- ☆顕彰先 : 東北大学 電気通信研究所
- ☆展示場所 : 東北大学 電気通信研究所 1号館 1階 史料室  
〒980-8577  
仙台市青葉区片平2丁目1-1
- ☆ホームページ : <http://www.riec.tohoku.ac.jp/>
- ☆アクセス(最寄駅) : 仙台駅から徒歩約20分



(授与式会場 地図)

